

# 大井九条の会

大井九条の会  
事務局連絡先  
83-2358 二上

## 3月19日の定例会では

最初に、ウクライナの歴史について学習しました。ウクライナの土はチェルノーゼムと言われる黒土で養分が豊富、作物の栽培に適していることから他国からの侵略にあつてきたこと。ソ連の独裁者スターリンの政権下では、1932年、穀物の強制徴発が命じられ、拒否した農民の処刑と飢餓により数百万人の犠牲者が出た。ウクライナはこれをホロドモール「飢えによる虐殺」と呼び毎年、11月追悼記念行事を行っている（赤旗・昨年11/28） ウクライナは長い間、ロシアとは異なる文化を持っており、言語も異なる。1991年、ソ連の崩壊時、独立を取戻した（片岡ソフィア・昨年2/20フェースブック）等々学びました。

続いて、ウクライナ侵攻の状況のもと、核共有などの議論がでる中、核兵器禁止条約についてどう考えるかを川崎哲さんが語る。ビデオを視聴し学習しました。ウクライナがNATOにもっと早く入っていたら、とか、核兵器を持っていたら等の議論に対し、川崎さんは、「今の戦争はロシアがNATOを敵視して始まった戦争だ。だからもしウクライナがもっと早くNATOに加盟していればもっと早くロシアの侵攻が始まっただろう。また核兵器を取得するには、北朝鮮を見ても分かるとおり、実際に使えるようになるまで長い時間かかるとおぼやかしく感じました。」

## 大江さんの想いを繋げよう

日本国憲法の改定阻止を目的として学者、作家ら9人により結成された社会運動団体「九条の会」の一人でした。

結成されてこの間  
小田実、加藤周一、井上ひさし、三木睦子、奥平康弘、鶴見俊輔、梅原猛が故人となり、存命の人は92歳の澤地久江さんだけです。大江さんは1994年日本人で2人目のノーベル文学賞を受賞された小説家です。大江さんの小説は難解とする人が多いと聞いていますが、その姿勢は、憲法への深い関心とも共鳴し、広島や沖縄、障がいのある子との生活などを通じた社会への敏感な視線につながった作品と



戦争が始まることとなるのではないのでしょうか。日本の礎、平和主義、国民主権、基本的人権の尊重の原則は、揺るがしてはなりません。平和を求める世界の市民と手をつなぐために憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えている「九条の会」と共に行動しましょう。

風間秀泰

**日本国憲法 第二章 戦争の放棄**  
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



間が必要、その準備の期間、ロシアは黙って見ていることはないだろう。この戦争の解決のためには、30年にわたるNATOとロシアの対決をいかに平和的に解決するかにかかっている」と述べました。

その後、日本の安全保障について、伊藤千尋さんのインタビュー記事を学習し、布施祐仁さんのインタビュー記事や毎日新聞の「週間テレビ評」、「記者の目」、それとウクライナと日本の比較表等をも参考に討論しました。

次に今後の計画として、4月8日に新松田駅前にて宣伝行動を行うことにしました。

なっています。

今の世の中は、強大国や政治権力、多数派、都市部といった「中心」の理屈はますます幅を利かせている。そんな時代をいま生きる人たちに、周縁にあらうとする立場を手放さなかった大江さんの人生と作品が教えてくれることは少なくないと思います。

現状の岸田政権は「安全保障に関する3文書」（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）を昨年12月閣議決定し、「専守防衛」を投げ捨て、抜本的な防衛力強化を図る政策を発表しています。防衛力強化によって、政府は相手に攻撃を思いとどませる「抑止力」になるといいますが、この「抑止力」が戦争の引き金になるのではないか。「抑止力」を使ったら、相手国を脅かすことで

### 新松田駅前北口宣伝行動

- ・ 4月8日（土）
- ・ 10時～
- ・ 配布ビラ準備中

### 次回定例会

- ・ 4月9日（日）
- ・ 14:30～
- ・ 生涯学習センター2階